

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1070500887		
法人名	医療法人 社団 田口会		
事業所名	グループホーム コアラ		
所在地	群馬県太田市飯塚町63-1		
自己評価作成日		評価結果市町村受理日	

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

①全職員が正社員でチームワークが良い ②季節ごとに壁紙を作成し、季節感を味わって頂けるようにしている。 ③個人新聞を毎月発行しご家族にお渡ししている。 ④庭に家庭菜園を作っており、利用者と職員が共同で色々な作物を育てて食べられるようにしている。 ⑤栄養士が作成したメニューに添って食事を提供し、毎月ご家族にメニュー表を発行している。 ⑥設備が充実している(プラズマクラスターイオン ジェットパーフェクター イルミネーション 業務用乾燥機 ドラム式洗濯機2台 スプリンクラー 浴槽が広く、リフト浴対応になっている 防火設備)

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/10/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	サービス評価センターはあとらんど		
所在地	群馬県前橋市富士見町小暮 704-2		
訪問調査日	平成26年1月16日		

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

防災訓練は消防署の協力による年に2回の定期的な訓練とは別に、事業所としてあらゆる災害を想定した自主的な避難訓練を毎月1回実施している。訓練の様子は記録に残して、常に反省会をしながら、いざという時に慌てずに避難誘導が出来るように努力している。このことから事業者が利用者の生命を如何に大事に考えているかが実感出来る。又、全てのサービス提供について、常に振り返り、スピード感を持って、より良いサービス提供に向けて話し合い、努力し、ステップアップする姿勢がうかがえる。
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	『信頼、安心、全ては利用者様のために』と理念を掲げている。職員の意識付けのためいつでも目に留まるようにと玄関、事務所に掲げている。また職員一人ひとりの思いを話し合い年間目標、一ヶ月目標を掲げ毎月の会議の時に実践の振り返りをしている。	事業所の理念に沿ったサービス提供のために、年間目標・月間目標を掲げており、毎月の職員会議において実践の振り返りをしながら、次へ繋ぐ話し合いをしている。理念は職員が常に目に留まるよう玄関や事務所に掲示している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会に加入している。回覧板を読み地域の情報収集をしている。年に数回地域のボランティアサークルを呼び交流を深めている。毎月コアラ新聞を行政センターに置かせて頂いている。施設の様子、活動を地域の人々に発信している。	地域のボランティアサークルによるオカリナやマンドリン等の演奏が行われており、地域の人との交流の場と利用者の楽しみの時間になっている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	毎月コアラ新聞を行政センターに置かせて頂き、施設の様子、活動を地域の方々に発信している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	二ヶ月に一度開催している。市役所職員、民生委員、地域代表、利用者家族に参加して頂き外部評価の報告、ホームでの様子等をお伝えしている。会議の中で家族からのご意見ご要望に沿えるように努めている。また市役所、全家族に会議議事録、勉強会資料をお渡ししている。	会議は年に6回開催されている。市の担当者は2回欠席しているが、民生委員・地域代表・家族等の参加があり、事業所から行事や利用者の状況のお知らせ、外部評価の結果や消防訓練の報告を行い、質疑応答や意見交換をしている。	運営推進会議は家族・地域住民・行政関係者・事業所職員等の参加による意見交換がサービスに反映されることを考え、行政担当者の毎回の参加に期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	行政とは、運営推進会議以外にも交流をもち、その都度必要な情報交換を行い連携を図っている。	市の担当者を訪ねて事業所の状況報告・相談事・意見交換等をして情報を共有し、連携を深めている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	家族には説明、同意を頂き必要な時間だけ玄関の施錠を行っている。普段はセンサーを利用し、利用者一人ひとりの行動やリスクを把握し安心安全に生活出来るように努めている	玄関は不審者情報が無い限り施錠はしない。共用空間の窓も開錠されている。身体拘束に関する研修に職員が参加し、職員会議で共有している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	知識を高めるため勉強会や研修に参加し、全職員が日頃の言葉、態度などに注意を払い見逃す事が無い様に努めている。また会議で議題にあげたりし職員同士話し合い、意見の交換を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	制度は知っているが必要とする利用者がいなかった為勉強不足な事も多々あると思われる。研修に参加した職員が報告書を作成し、全職員が目を通して周知するようにしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	管理者・介護支援専門員が契約書や重要事項説明書の説明を十分に行い同意を得ている。家族の不安や疑問点を伺い、納得・理解していただけるよう十分な説明に努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日頃から家族と連絡を取り合い、利用者の状態報告、不安や疑問を聞く事に努めている。玄関に意見箱を設置し様々な形で家族の意見を伺えるようにしている。年2回満足度アンケートを実施。その際に持っていたタオルが汚れていたという声があった。その声を職員は申し送りや申し送りノートにて共有し改善にあたった。	家族等の来訪時に「コアラ新聞」や利用者の状況を報告し「お気づきの点等ありませんか」と家族等が話し易い雰囲気を作り意見や要望を聞くようにしている。出された情報は職員が共有し出来る事はすぐに反映させている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	代表者、管理者、職員は密に連絡を取り合っている。又、代表者は施設に連絡し情報収集を行い職員の意見提案を聞きサービスの向上に努めている、	管理者と職員は忌憚なく話し合いが出来る関係にあり、職員の意見や希望は管理者を通して法人事務長に伝えられ反映できることはすぐに実践されている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者、管理者は連絡を取り合っている中で個々の職員の情報を共有している。代表者は管理者、職員とコミュニケーションを図り向上心をもって働けるように努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修に参加している。受講した職員は報告書、研修資料を提出し全職員が同一の知識を得られるようにしている。又、月1回のコアラ会議の時に勉強会を行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協会開催の研修会に参加し意見交換等の交流を図りサービスの向上に活かしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	契約時に管理者、介護支援専門員が本人の心配、不安等をじっくりゆっくりと時間をかけ、お聞きしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	契約時に管理者、介護支援専門員が家族の心配や不安を伺っている。またこれまでの経緯等をお聞きして、安心してもらえるよう、コアラとしてどのような対応が出来るかをお伝えしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	毎日の申し送りの中で話し合い、その都度必要としている支援を見極め、早急な対応を心がけている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	毎日の生活の中で、野菜作りや調理の仕方など様々な事でアドバイスを頂いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	日頃の状態を面会時、面会の無い時には電話にてこまめに報告、相談させて頂いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	利用者が生まれ育った地域の馴染みの知人や兄弟等がいつでも遊びに来て頂けるよう支援している。	在宅時に慣れ親しんできた行事(かるたとり・おせち料理・お月見)や好みの洋服の選択、マニキュアをつける、畑仕事や花の手入れ等、利用者にとって馴染みの事柄の継続支援に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	気が合う者同士と一緒にテレビを楽しんだり、景色を眺めたり、話しがはずむよう席の配慮を行っている。また一人になりたい時には静かに過ごせるように配慮も行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス終了後も入所された施設、入院された病院から可能な範囲で状態を伺っている。また、サービス終了後も気軽に連絡や相談をして下さるようお願いしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者との日常の会話や表情から本人の思い、希望を把握するよう努めている。ご家族からは面会時に伺っている。利用者やご家族から聞かれた思いは申し送りなどで職員が共有している。	日常生活の中での利用者との会話や言動等を確認し合い、思いや希望の把握に努めている。家族からは面会時に本人についての情報を聞いて、本人本位の支援に活かしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	契約前や契約時に管理者、介護支援専門員により、本人やご家族に、これまでの暮らし・経過を伺っている。入居調査カードや入居申込書をご家族と職員で一緒に話し合いながら記入して頂いている為把握できる事が多い。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者様の状態を毎日把握し、介護記録に記入している。心や体調の変化を見逃さないように早期発見し、申し送りで共有している。統一したサービス提供するためケア会議を行っている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者本人、ご家族の思いや希望を伺い、それに対し職員間で意見交換を行う。意見は介護計画に反映させている。随時と3ヶ月にケアプラン原案を作成、ご本人ご家族に説明、定時、その後本プランを作成し了承を頂いている。月に1回モニタリングを行っている。	本人や家族の思いや希望を基に、職員で話し合い介護計画に反映させている。月に1度モニタリングを行い、3ヶ月毎に計画の見直しをしている。状況に変化のある時には随時の見直しを行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子を個別に介護記録に記入。受診結果は受診ノートに記入し確認印を押している。始業前はノートを確認してから業務に入る。毎日の申し送り、ケア会議にて気づきや工夫を提案、実践しての改善点、見直しを行っている。。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人、家族に応じてその方に合ったサービスを提供している。移動手段が確保困難な方は通院や送迎の支援。キーパーソンが女性物の下着や衣類を揃える事が難しいケースには職員が買い物の支援を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域で慰問等を行っているボランティアの方たちに施設へ来て頂き、歌や演奏等をして頂いている。中には何度も来て頂き、利用者と顔なじみになっている方もいらっしゃる。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医について本人と家族に説明し、契約時に選んで頂いている。家族の受診付き添いが負担にならないよう職員が順番取りや送迎、病院へ伝えてほしい事を記載した書類を活用している。	契約時に在宅時のかかりつけ医の継続か協力医に変更するかを本人及び家族等に選択してもらっている。かかりつけ医の受診は基本的には家族支援だが家族の都合により職員も対応している。緊急時の対応は事業所が行っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	急変時や状態を判断できない時等にはかかりつけ医院、協力病院等で指示を頂いている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院の際にはサマリー等で利用者の状態を病院側へ伝えている。又、ほぼ毎日職員は面会に行っており、病院へ利用者の状態を伺うようにしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	家族へアンケートや面会時等に話しが出来るように機会を設け、重度化・終末期についての希望を伺い出来る限り沿えるようにしている。	事業所としての重度化や終末期に対しての指針はある。看取りの経験は無い。医療行為が必要ない場合には家族の希望に沿った対応を考えている。巡視時にはいびきや寝息や手の動き等記録を取っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救急の講習や研修に参加している。会議の際に勉強会の時間を設けてそこで急変時をはじめ、様々な事を勉強できるようにしている。マニュアルをすぐ目に入る場所に設置して全職員が周知できるようにしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回消防署の協力を得て利用者、家族、市役所職員、民生委員、地域代表、全職員と避難訓練を行っている。毎月1回火災や地震など様々な状況を想定して自主避難訓練を行っている。	消防署の協力により定期的な避難訓練を年に2回、利用者・家族・市の職員・民生委員・地域代表・全職員が参加し実施している。様々な災害を想定し自主訓練を毎月実施。避難訓練時の利用者の言動を記録し、次回の訓練に活かしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	全ての利用者を人生の先輩として敬う気持ちを持ち、一人ひとりに合った対応・声掛けを行っている。職員全員に権利擁護について考える機会を設けて勉強会等を行っている。	人間としての尊厳を傷つけないよう、利用者や家族等を思いやる気持を持った言葉遣いをするよう心掛けている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者との会話や行動からも情報収集できるように職員は努めている。利用者との信頼関係を築いて行く事で利用者の深い部分の思い、希望が聞きだせる事を職員は理解し、そのうえで行動するようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その人の得意不得意、好きな事、嫌いな事を職員は把握して、好きな事、本人のやりたい事を個別にも行っていけるようにしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	きれい好き、暑がり、寒がり等身だしなみやおしゃれに関しても家族や本人から情報を得て、その人らしい身だしなみができるよう情報を共有している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	ペースト食の方にも何を食べているかわかるように、食事の見本となる写真を毎食テーブルに置いている。出来る方には食事の準備も一緒に行ってもらっている。	利用者の希望を参考にした食事が提供されている。ペースト食の場合は原型が分かるよう見本の写真を提示する配慮をしている。数種類の飲み物を用意し、好きな物を選ぶことができる。家族と一緒に食事を楽しむ機会(食事会)を設けている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	系列医院の栄養士によって食事はバランス良く考えられている。水分、食事の摂取量も介護記録で全員が一目でわかるようにしている。水分摂取の進まない方にはゼリーやアイス等で補って頂けるよう工夫している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	歯ブラシ、口腔ガーゼ等を一人ひとりに合わせ使い、口腔内の清潔保持に努めている。また、口腔ケアの研修にも参加し情報を職員が共有できるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	介護記録に排泄の時間を記入、最終排泄から2時間前後に声かけを行い排泄を促すようにしている。また、利用者の声を大切に、その都度の排泄介助も行っている。	自立の方が4名いるが、排泄の記録を参考に利用者の様子を見ながら排泄支援を行っている。夜間はポータブルトイレ、おむつ、ショーツ・パットの使用等、利用者個別の対応をしている。居室・共用空間共に特有の臭いは感じられない。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	前日、夜間の排便の様子を観察した上で毎朝牛乳等の乳製品を提供している。個々に処方されている薬の調節をしている。また、こまめに水分補給をして頂くようにしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	その日の体調の確認を行い音楽をかけてリラックスして入浴して頂けるようにしたり、入浴剤などを入れて気分転換をして頂けるように支援している。	基本的に入浴日は火・木・土となっているが受診の前日には入浴したり、入浴日以外の日や拒否される場合は足浴やドライシャンプーで対応している。同性介助に対応している。	事業所の都合等で曜日や時間帯を決めることなく、声掛けを行い、希望があれば利用者の希望に沿った入浴支援を検討して欲しい。
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	居室の温度調節や加湿用のタオルをかけ、気持ち良く眠って頂けるように環境を整えている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	各自の薬手帳やファイル(薬局から頂く薬の内容が書いてあるもの)があり、全職員が把握できるようにしている。また薬の変更があった時にはその都度申し送りを行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	食後のテーブル拭きや洗濯物干し、洗濯物たたみなど利用者がそれぞれの持っている力を活かした役割を支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気や利用者の体調によって、車で近所のスーパーへエコポイントを貯めにゴミ出しへ行ったり、ガソリンスタンドへ行く等の支援をしている。	近隣の散歩・花を見ながらのドライブ・事業所の駐車場や中庭での外気浴・イルミネーションの見学等、楽しみながらの外出支援を行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	新聞広告やテレビ等を見て欲しいものがある場合は近くのお店に一緒に行き、買い物をしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	随時家族や親せきとの電話のやりとりが出来るように仲介を行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	春夏秋冬が感じられるように利用者様と共に作った工作等が廊下・リビングに飾ってある。時々猫や鳥が中庭に遊びに来る事が有り利用者は楽しみにしている。	共用空間から景観がよく、中庭の草花が眺められ季節の移りを実感出来る。時には小鳥の姿や猫の散歩の様子等を目にすることも出来る。利用者の作品や行事の写真等が掲示されている。不快な臭いはなく居心地良く過ごせる雰囲気である。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居室・中庭を眺められるように椅子を置き、一人の時間が過ごせるように、また、利用者同士での会話も弾むように席の配置を工夫している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた家具やテレビ等を持って来て頂き使用している。各部屋にはメッセージカードや家族との写真等が飾ってある。	整理ダンスとベットが事業所の設置となっている。利用者はそれぞれ馴染みのある時計・髭剃り・テレビ等を持ち込み、居心地良く過ごせる居室作りをしている。居室も臭いは無く、衛生上の管理が行き届いている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人ひとりの身体機能に合わせ、車椅子・手すり・杖等を使用して頂いている。また居室・トイレへ行くのに迷わないよう各居室前には大きな字で名前・利用者好みのシールを貼って目印にしている。		